

バブル経済

1970年代の2度の石油ショックの後、日本経済は、政府の積極的な経済財政政策でいち早く回復し、安定成長の時代へと入った。しかし、1985年、アメリカが、世界最大の債務国に転落したとき、時代は動き始めた。

双子の赤字を抱えるアメリカは、同年9月、プラザ合意の中で、アメリカの貿易赤字削減のための国際協調政策を先進各国（日、独、仏、英）に依頼。日本はその政策を実現するために、金融緩和政策を強く進め、1ドル200円前後だった為替レートが、120円前後へと円高が急速に進んだ。

インフレを防ぐには、中央銀行が金利（公定歩合）を引き上げることが必要だが、日本銀行は低金利政策を続け、公定歩合は2.5%にまで下げられた。急速な円高によって生まれた国内不況を回復させようとしたからである。その結果、景気は一時的に回復へ向かい、インフレは急激に進んだ。ベルリンの壁が崩壊した1989年には、東京証券取引所で株価が最高値を記録した。しかし、そこからバブル崩壊が始まった。

バブル崩壊が始まる直前の1989年5月まで、2年3か月も低金利政策が続いた結果、貨幣の供給量は飛躍的に増大し、過剰流動性が生まれた。こうした過剰流動性は、本来なら、物価に反映されるべきものだが、円高や原油価格の低下から物価は上がらず、過剰流動性は株式や土地などの資産に集中した。財テクということばが流行し、国内での投機熱が高まり、企業も個人もこうした資産を買いあさった。その結果、1956年から1986年までに、消費者物価の4倍弱に対し、土地は50倍に値上がりした。

バブル崩壊後、土地に関係する不動産会社や建設会社に貸し出した資金が焦げ付き、銀行は多額の不良債権を抱え込むことになった。今まで倒産することがないと思われていた金融機関が相次いで破綻し、残った金融機関も貸し出した資金が焦げ付くことを恐れて、極端な貸し渋りに走った。その後、日本は長い不況の時代に入ることになる。

4課 本文語彙

債務国	さいむこく	debtor nation
転落 (する)	てんらく	fall
双子の赤字	ふたご・の・あかじ	twin deficits
削減	さくげん	reduction
協調	きょうちょう	cooperation
依頼	いらい	request
実現 (する)	じつげん	realize
金融	きんゆう	finance
緩和	かんわ	relaxation
為替	かわせ	exchange
急速に	きゅうそく・に	rapidly
防ぐ	ふせ・ぐ	prevent
公定歩合	こうていぶあい	interest rate
不況	ふきよう	depression, slump
回復 (する)	かいふく	recover
急激に	きゅうげき・に	suddenly
崩壊 (する)	ほうかい	fall
証券	しょうけん	securities
株価	かぶか	stock prices
貨幣	かへい	money
飛躍的に	ひやくてき・に	rapidly
過剰流動性	かじょうりゅうどう せい	excess liquidity
反映 (する)	はんえい	reflect
投機	とうき	speculation
不動産	ふどうさん	real estate
焦げ付く	こ・げ・つ・く	become uncollectable
不良債権	ふりょうさいけん	non-performing loans
倒産 (する)	とうさん	go bankrupt
極端な	きょくたん・な	extreme

貸し渋り

4課

ポツダム

受諾

占領 (ていりやう)

連合国軍

最高司令官

財閥

地主

強制的に

小作農

零細

生産性

指摘 (ていさく)

壊滅的

悩む

緊縮

敷く

不況

陥る

救う

大韓民

朝鮮民

人民共

特需

好況

統制 (ていせい)

ぬるま